

東区牛田山

ぐるっと

魅力がいっぱい

牛田山縦走路は、都心に近く、5つの山からなる四季折々、風光明媚で素敵なハイキングコースです。



牛田山から瀬戸内海を望む
手前の比治山から市街の向こうには晴れの日には、安芸の小富士「似島」、宮島も眺望できます。



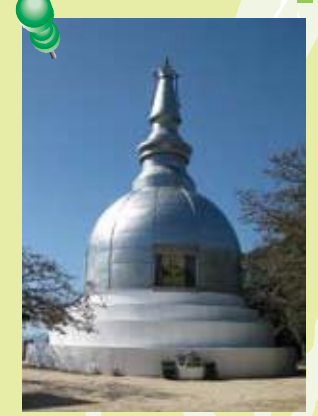
見立山から広島市街地を望む
天正17年(1589年)毛利輝元がここから周囲を見渡し、築城(後の広島城)の場所を見立てたことから「見立山」と名付けられたといわれる場所です。



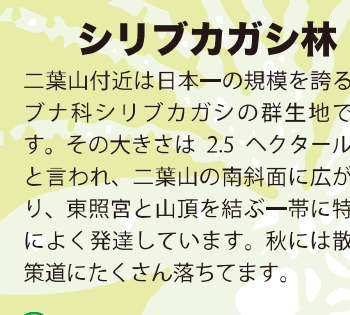
二葉山から広島市街地を望む
二葉山平和塔付近の広場からは、市街地が目の前に見ることができ、遠くは、瀬戸内の島々が望める場所です。

見どころ紹介

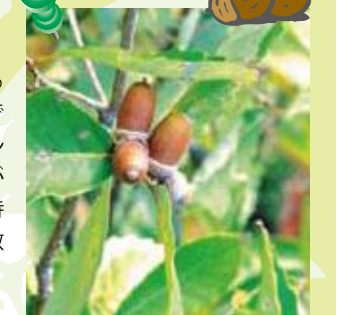
牛田山縦走路には、見どころがたくさんあります。特に二葉山には、日本一のシリブカガシの群生地があります。また、頂上からは市街地が手に取るように眺めることができ、その景観は格別です。さらに、中山中町のため池には、普段森の中で生活し、梅雨前の産卵の時に水辺の上の木の枝に卵を産みつけるモリアオガエルの卵のかたまりを見ることができます。他にも多くの自然が残っている牛田山縦走路を一度歩いてみませんか。



二葉山平和塔
世界の恒久平和を念願し、原爆の犠牲者の冥福を祈るため、昭和41年(1966年)に建立されました。インドのネール首相から贈られた仏舎利が一粒、モンゴル仏教徒やスリランカ(当時はセイロン)から贈られた各一粒も安置されています。さらに県民の平和の願いを込めた祈念石数万個も奉納されています。



シリブカガシ林
二葉山付近は日本一の規模を誇るブナ科シリブカガシの群生地です。その大きさは2.5ヘクタールと言われ、二葉山の南斜面に広がり、東照宮と山頂を結ぶ一帯に特によく発達しています。秋には散策道にたくさん落ちてます。



モリアオガエル
中山中町のため池付近に、梅雨時期になると卵を産みにきます。普段は森の中で生活しており、産卵の時に木の枝に産みつけるのです。モリアオガエルが生きていく環境は森とそれに続いた水辺が必要なのです。そんな環境をいつまでも残したいものです。

目印は各登山口にあり、案内板があります。

A 戸坂桜ヶ丘口コース 戸坂交番より戸坂桜ヶ丘団地口～

B 東区スポーツセンター口コース 東区スポーツセンター・バラ園～

C 饒津口コース 饒津神社・明星院より

D 東照宮口コース 広島東照宮～

E 山根口コース 二葉中と尾長小の間より

F 中山中町口コース 中山中町バス停～徒歩3分

G 神田山荘口コース 神田山荘抜けて～

太陽の岩 広島のパワースポット
東照宮口から、金光稲荷神社奥宮から少し登り、右へ曲ると二葉山平和塔、左へ曲ると「太陽の岩」に辿り着きます。(二葉山はいくつかのルートがあり、西方面から登ると道中にこの岩があります。)

(二葉山平和塔手前登山道)

高射機銃陣地跡
二葉山には、第2次世界大戦中に高射砲陣地や高射機銃陣地、兵舎などがありました。原爆により兵舎などはほぼ全壊しましたが、高射機銃陣地の石垣は今でも残っています。

周辺位置図

牛田山中腹に今も残る太古の暮らしと歴史の足跡。 (牛田山山頂付近)

いにしへのロマンも残る、牛田山。歴史の面影を綴るのも、魅力の一つです。解説看板もあり、歴史的背景や古代の生活が今も蘇ってくるようです。眺望と山々の足跡を紐解きながら登山するのも楽しみです。

戸坂城跡 (名称；茶臼山城)

戸坂城跡は、牛田山の山頂に位置し、眼下に太田川の可耕地を見下ろすことができる眺望良好の場所にあります。郭(山城の中で平にならした場所)は最高所(山頂)と、その北東から東にかけて囲むものの2つからなります。

西山貝塚

(写真/西山貝塚から出土したもの)

貝塚とは、当時の人々が骨や貝殻など食べられないものや割れた土器などの不要品を捨てた場所のことです。この西山貝塚は、標高約260mのところであり、今から1800年前頃の弥生時代後期のもので、カキやハマグリなどの貝殻に混じり、土器、石器、鉄器、青銅器、骨角器などが見つっています。とくに巴形銅器(写真中央)とよばれる青銅器は県内でも出土例のない貴重なものです。また、この貝塚はこのような高地に集落が存在していたことを示しており、中国史書に伝えられる「倭国大乱(2世紀後半頃)」に関わる軍事的施設との見方が有力です。

バラ園 (新牛田公園内)

東区スポーツセンター隣のバラ園では、春から秋まで約65品種、約2400株のバラが植栽されています。毎年5-6月頃に花が咲き、多くの方々に親しまれています。

歩行時間は休憩時間を含まない場合の所要時間です。参加者の体力・技術等のより異なるので、参考程度にしてください。積雪期、降雨時とその後、多人数のとき、あるいはコースが荒れているときは、さらに余分の所要時間を見込む必要です。体力や装備を十分考慮しながら、無理のない計画をたてて安全登山に心掛けましょう。また、マップでの紹介はコースの安全性を保証するものではありませんので、個人の責任のもとで安全には十分配慮してください。